

く痛んで参つたが此處に大便所が有れば拜借な致したいと、ろうじへ這入つて來よつた、ろうじ口で何や踏みよつたんや、雪駄の裏へニイヤリとおいでたわ土にしては少々粘り氣も之有候、犬糞でなくばよいがとデイト雪駄の裏を撫でて來て、其手を嗅いで案に違ず犬糞く、紙で拭くのも異な物何處ぞ其處らの壁へ塗附てやろうと、ろうじへ這入つて來よつたんや、見附けられたらいかんと思ふて壁へペチャツと粘着いて居たら、此處らの壁がよかろうとニユツときたのが私の鼻の先端や、私の鼻を犬糞の雑巾にしられたんや、臭いやら怪太糞が悪いのでキヤツと云ふたら、其の聲で講釋師は逃げるし、おまやんは逃げるし、後に残つたんは私と犬糞と二人連れや」

「そんな物と二人連れにならないな」

「其の晩は風呂へ行て綺麗に洗ふて歸つて來て翌晩おまやん處へ行て、おまやん昨夜は甚い首尾が悪かつた、もう少し話が残つてるね今晚最一遍附合ふてんかと云ふたら、おまやんの云ふのは、その内のお父つさんやお母はんはあんな人や依つてに夜店へでも行くと云ふたら出して呉れはらん事もないが、内へ歸つて能う考へて見ると、鼻で彼の様な不潔な物を拭かれる様な人に添ふても末の見込がないで折角やがあの話は變更やといな、折角出來た話も犬糞が爲にメチャくや、その後藤一山と聞いたらデイトして居られん、是れから丑の時詣りをしたる」

「コレ一寸待ち、丑の時詣りと云ふたら戀の意趣でするもんやで」

「そうや、私かて犬糞の仕返しや肥の意趣でするね」

「泣いて居てあんな事を云ふてる」

「それがいかんのなら講釋を演つてるのを前から相手になつて、講釋を演れん様にしてやろうかしらん」

「コレ其様な事したら商賣つぶしや、お前が其様に思ふのなら、たとへ一晩でも講釋を演れん様にしたら、お前の氣が済むか」

「一晩やない、たとへ一時間でも講釋を演れん様にしたら私の腹の虫が得心するね」

「そんなら私が宜い智恵を貸そか」

「それでわ何分尊公の盡力を以て御加勢を頼む」

「大層に云ひないな、そんなら錢を二錢はりこみ」

「何うするね」

「横町の八百屋へ行て、胡椒の粉を二錢がん買ふといで」

「胡椒を何うするね」

「講釋を演つてる前で火鉢へ胡椒を燻べると其の煙が鼻の中へ這入ると惡い嚏が出る、嚏の三つもした處でポロクソに云ふて講釋を演れん様にしたたり」